

山内 一浩
市立豊中病院 臨床検査部

内閣府から「令和4年版高齢社会白書」(2022)が示されているように、少子高齢化の進行は我が国の生産年齢人口の減少を招き、2050年には大幅な減少が見込まれています。この人口構造の変化は、労働力不足や経済規模の縮小といった社会的・経済的課題を深刻化させており、医療業界も例外なく様々な課題に直面しています。特にアフターコロナにおける病院経営が厳しい状況が続く中、臨床検査部にはこれらの変化への「適応」と、その役割の「深化」が求められています。

本講演では、当院における現状と、2021年の検査室改革以降の取り組み、その評価および今後の展望について共有いたします。本改革は、まさに外部環境変化への適応を目指すものでした。また、2024年5月にISO15189を取得したプロセスとその前後における業務の変化を検証することで、今後の検査部が院内にて貢献するために必要な深化の要素も明らかになっています。さらに、直近で開始した病棟検査技師の取り組みは、検査部の活動範囲を病棟へと適応させ、専門性をより臨床に近い場で発揮している試みであり、一定期間を経過したことでの病院への反響と成果についてもご報告できると考えています。

本講演を通じて、次なる院内貢献を模索している検査室の皆様が、日本の変化と時代に適応し、臨床検査の専門性を深化させるための一助となるようなメッセージを提供できればと考えております。当院での具体的な取り組み事例を通して、未来に向けた臨床検査部の院内貢献の可能性を探ります。